

地域からのエネルギーシフト ～3万人のまちからできること～

2015年8月6日

一般社団法人社団法人 大磯エネシフト

理事長 岡部幸江



はじまりは3.11



2011～2013年 大磯エネシフトの原点

2011年

4月 エネルギー勉強会が始まる。

8月 地域住民参加の勉強会

講師：法政大学教授 船橋晴俊さん



10月 「みえない雲」翻訳者高田ゆみ子さんお話し会

11月 町と議会へPPS(新電力)の導入を陳情、
議会は採択。約400万円の削減効果。

原発に依存した社会から転換するには、立場をこえて賛同してもらえ前向きな提案が必要と気付く。

2012年～2013年12月12日大磯エネシフト誕生へ

・2012年2月 田中優さん講演会開催

5月「シェーナウの想い」上映会 &
おひさま進歩エネルギー原社長の講演開催

・2013年6月「コミュニティーパワーイニシアチブ」
立上げイベント参加



・2013年12月12日一般社団法人大磯エネシフト立総会

主催講演会「3万人のまちから エネルギーシフト
シリーズ

第1弾2014年2月 法政大学教授 船橋晴俊さん
「自然エネルギーは地域のもの」

第2弾2014年4月 七沢 潔さん『ネットワークで作
る放射能汚染地図』NHKディレクター
「原発のメディアー3・11から考える私たちの未来」



大磯エネシフト 第一発電所



2014年4月21日
点灯式

14年4月17日 稼働開始



発電能力 15kw
カナディアンソーラー社の太陽光パネル60枚
(約4軒分の年間消費電力に相当)

2014年5月大磯エネシフト設立記念講演会



飯田哲也さん講演
「自然エネルギーを私たちの町から」

学者、研究者、政治家、市民の対話の場に

一瞬できた！
こんな四辺形！



「みんなの発電所」

3・11福島を忘れず、持続可能な社会への転換を願うシンボルとして

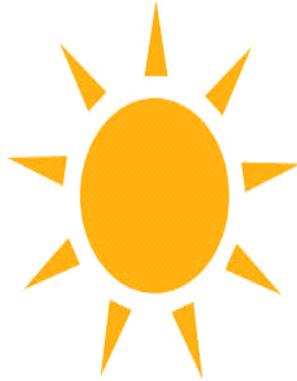


おひさまの光でできた電気から生まれたお金が原発事故で傷ついた子どもたちの支援に

第2発電所の事業計画

《第2発電所の事業計画》

2015年3月発電開始



寄付分からうまれた発電収入を
全額寄付します。

第2発電所（総工費550万円）

福島の子どもたち
の支援

私募債
(10万円/口)

ご寄付で協力

融資で協力

市民

地域金融機関

「自然エネルギー世界白書2015」より

2014年は風力発電と太陽光発電の年間導入量が過去最に。

20か国以上で自然エネルギー導入目標が新たに設定され
世界で164か国に。

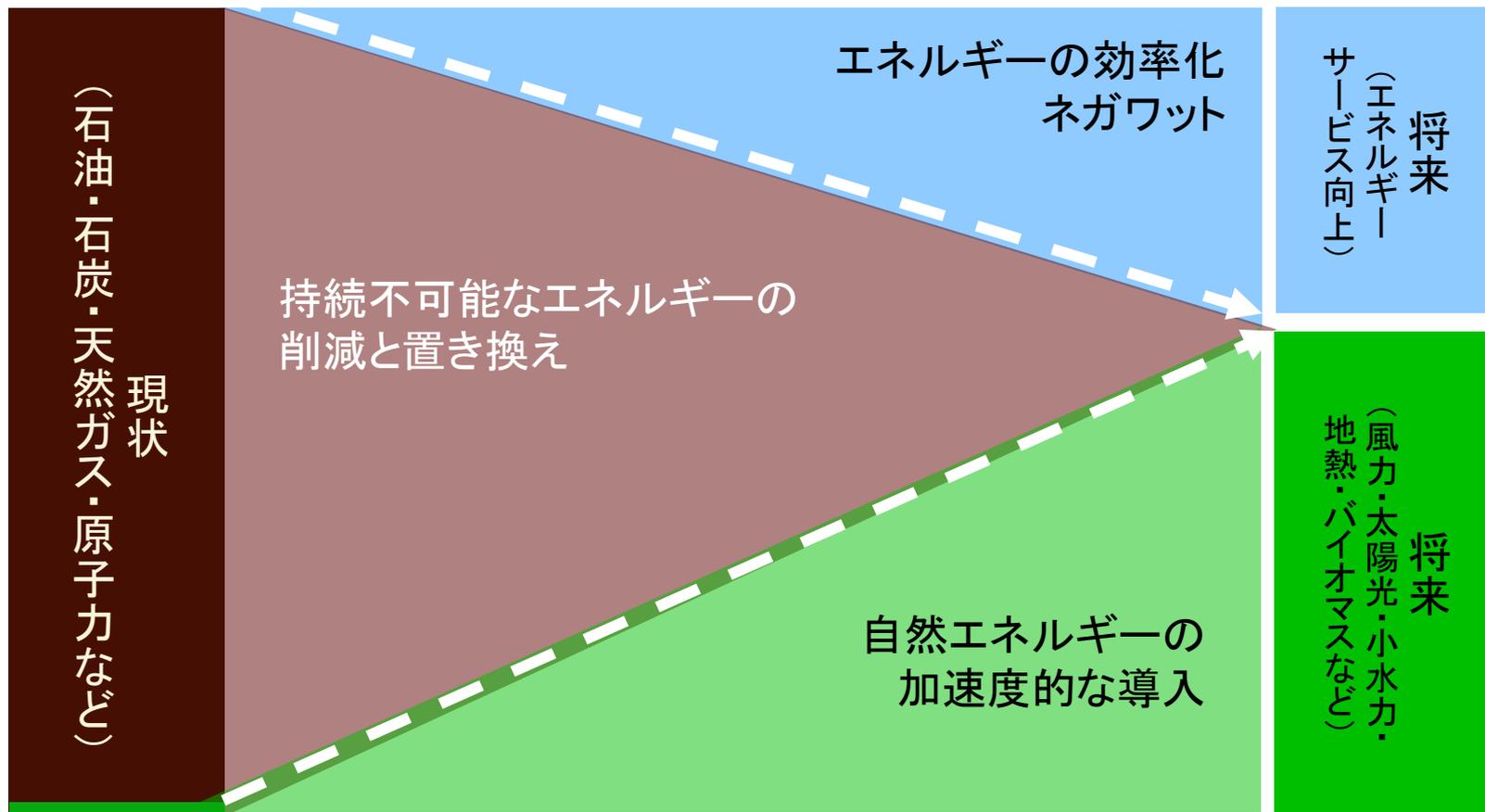
自然エネルギーが世界全体の発電容量の正味増設分の60%以上の割合
に。

自然エネルギーの温熱・冷熱利用に政策立案者の関心が高まる。

自然エネルギーへの投資額は世界全体で3010億ドル、途上国と先進国が
同程度。

日本の太陽光発電市場は世界2位、自然エネルギー
への投資額は世界3位を堅持。

持続可能なエネルギー社会の基本原則



地域からのエネルギーシフト —— 大磯エネシフトの活動と課題

<地域での活動>



<市民電力ネットワークの一員として>

市民電力連絡会、全国ご当地エネルギー協会のメンバーとして

- ・2014年11月9日「首都圏市民電力の集い」(事例報告)
- ・2015年1月中旬「湘南ソーラーベルト見学ツアー」(仮称)企画担当

市民による自然エネルギー事業

「3.11以降、環境にやさしい自然エネルギーの発電所を、市民や地域の金融機関、自治体が協働して建設する動きが全国に拡大。」

2014年末、全国で既に600カ所に！

<http://power-shift.org/action/>より

2014年2月市民電力連絡会発足

2014年3月11日 全国ご当地エネルギー協会 発
起人集会（5月設立）

宝塚すみれ発電

行政と市民「対立」から「協働」への大転換



市民ネットワークの大きな広がり

「パワーシフトキャンペーン」

運営団体 [eシフト](#) [市民電力連絡会](#) [国際環境NGO FoE Japan](#) * 事務局団体

[認定NPO法人環境市民](#) [認定NPO法人気候ネットワーク](#)

[電力改革プロジェクト](#) [首都圏反原発連合](#) [太陽光発電所ネットワーク](#)

パワーシフト宣言(自然エネルギー電力購入希望登録)にエントリー

「自然エネルギーで豊かな日本を創ろう！アクション」

<http://shizen-ene.blog.jp/>

呼びかけ団体：

全国消費者団体連絡会、日本生活協同組合連合会、みやぎ生活協同組合、コープネット事業連合、生活クラブ事業連合生活協同組合連合会、パルシステム生活協同組合連合会、大阪いずみ市民生活協同組合、生活協同組合コープこうべ、全国ご当地エネルギー協会、市民電力連絡会、全国小水力利用推進協議会、エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議、大地を守る会、北海道グリーンファンド、エネルギー戦略研究所、環境エネルギー政策研究所、自然エネルギー財団、風力発電推進市町村全国協議会

協力団体：全国農業協同組合中央会(2015年2月19日現在)

市民の微力をつないで大きな力に

●19世紀末のイギリス、ピーター・ラビットの原作者B・ポターも創成期を支えた**ナショナル・トラスト**。理念が世界中に広がり環境保全が進む。

●1986年イタリアの3万人のまちブラではじまった「**スロー・フード**」運動150カ国 10万人以上の会員を持ち食文化のみでなく生活様式やまちづくりを見直すきっかけに。

●1986年チェルノブイリ事故後、ドイツのシェーナウ市民が10年の歳月をかけてつくった**市民電力会社**はいまや15万世帯の電気をまかなっている

3万人の町からエネルギーシフトをめざして！



ご静聴ありがとうございました。